

【国際交流】ホーチミン医科薬科大学学生が本学を訪れました

本年もベトナムホーチミン医科薬科大学学生が本学を訪れました。平成 27 年 10 月 20 日から 29 日までの 10 日間、スポーツレクリエーションで汗を流しての交流から始まり、日本の医療システム、医療教育を学ぶために、本学の授業に参加した他、県内の病院、福祉施設、保健所、製薬企業等の視察を行いました。学科毎には、日本の新幹線を初体験しながらの東京大学訪問や、専門的な分野での実験、実習に参加、また介護ロボットを実際に装着しての体験授業など、それぞれの学科の特色を生かしたプログラムが行われました。自国と違う環境や方法に戸惑いながらも、熱心に学ぶ学生の姿勢は私たちも見習いたいところです。活発な質疑応答を経て「日本にも一度来たい」「この経験を自国の発展に生かしたい」と将来を見据えた頼もしい意見が聞かれました。

今年で 2 度目となる学生、職員宅ホームステイ受け入れは期間中、3 泊実施し、アパート住まいの人は布団や通学のための自転車を調達したり、自宅で受け入れる人は、畳の部屋でおでんをふるまったりと、それぞれの準備も余念なく、また外出の際には、高崎のだるま絵付け体験や、買い物のサポートなどホームステイ受け入れも堂に入ってきました。期間中の大学祭や県内観光で学生間での楽しい一時を過ごし、来春、本学学生がホーチミンを訪れる際の再会を固く約束しての別れとなりました。

空港へ向かうバスの中で聞いた、「日本の方達のホスピタリティに触れ、この上ない経験ができたことを本当に幸運だと思う。」という学生の言葉はとても印象的でした。

本プログラム遂行にあたり、お骨折りくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。

* 本プログラムは「日本・アジア青少年交流事業(さくらサイエンスプラン)」として国立研究開発法人科学技術機構の支援により、1『医療ロボットの利用と将来像 ～最先端技術の実用における課題と可能性～』2『薬学最先端～分子レベルから臨床レベルまで～』をテーマに遂行された事業です。

ウエルカムセレモニーの後で



スポーツレクエーション



薬学科にて



介護ロボット装着体験



子ども家族支援センターにて

